

令和3年度 社会科 1年地理 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

< 2 > 地理的分野の目標

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	日本や世界の地域に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	C	努力を要する状況である。（50％未満）

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。（90％以上）
	4	十分満足できる状況である。（80％以上）
	3	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	2	努力を要する状況である。（50％未満）
	1	一層努力を要する状況である。（20％未満）

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①思考力・判断力・表現力の育成。→生徒の言語活動を充実させる指導。
- ②自主的・自発的な学習の促進。→体験的な学習や問題解決的な学習。 発展的な学習
- ③学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習。
- ④個に応じた指導の充実。→ 個別指導 グループ別指導 繰り返し指導 課題学習 補充的な学習

社会科 1 学年 地理的分野 年間指導計画・評価計画

【評価の観点】知識・技能＝知技, 思考・判断・表現＝思判表, 主体的に学習に取り組む態度＝態度

月	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
4	■導入の活動 世界の国・日本の都道府県クイズを作ろう	- 世界の国・日本の都道府県クイズ（景観写真，名物，国旗・県章）を通して，小学校社会科，映像や書籍，旅行などで身に付けた世界や日本に関する知識を整理する。 - 世界や日本の地域構成の特色を考察し，理解するために「世界や日本はどのような姿をしているのでしょうか」という探究課題を立て，主体的に追究する。	- 世界の国・日本の都道府県の特徴を記したカードの作成やクイズの出題・回答を通して，小学校で身に付けた知識を整理している。（知技） - 設定した探究課題の答えを予測し，見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度）
	1 地球の姿を見てみよう 六大陸と三大洋 世界を分ける六つの州	- 衛星写真や地球儀から世界の姿を大まかに眺め，世界の姿を大観する。 - 世界地図を活用して，六大陸，三大洋，6 州の名称や大きさ，位置関係を捉える。	- 衛星写真や地球儀を活用し，大陸と海洋の大まかな形状と位置関係を理解している。（知技） - 六大陸，三大洋，6 州の名称と位置，大きさについて理解し，その知識を身に付けている。（知技）
	2 世界のさまざまな国々 多くの国々がある世界 国名の由来を知ろう 国旗に表れた国の特色 国境の決まり方 海洋国と内陸国 面積の大きい国と小さい国 人口の多い国と少ない国	- 地図帳の世界地図や国旗から，現代世界は多様な国々や地域から構成されていることを大まかに理解する。 - 地図帳の世界地図や写真資料等から国境線には違いがあることに着目し，なぜこのような違いがあるのかを考察する。 - 地図帳の統計資料を活用し，面積の大きい国と小さい国，人口の多い国や少ない国を調べ，世界にはさまざまな国があることを理解する。 - 上記の活動を通して，世界 60 か国以上の国の名称や位置を捉える。	- 地図帳の世界地図や国旗から，国の面積の大小，国境線を含めたさまざまな形を理解している。（知技） - 地図帳から直線的な国境線とその他の国境線が引かれた理由の違いを考察している。（思判表） - 教科書および地図帳の統計資料を活用して，各国の面積や人口について適切に調べている。（知技） - 主な国々の名称と位置，世界の地域区分を理解し，その知識を地図上で身に付けている。（知技）
	3 地球上の位置を表そう 緯度と経度	- 地球の模式図から緯度と経度について理解するとともに，緯度と経度を用いて，地球上の位置を表す力を身に付ける。 - 地図帳を用いて，さまざまな都市の位置を探す力を身に付ける。	- 緯度と経度を活用して特定の国や都市の地球上の位置を適切に表すことができている。（知技） - 地図帳を用いてさまざまな都市の位置を探している。（知技）
	4 地球儀と世界地図を比べ	地球儀を用いて，距離や方位などを調	地球儀を使いながら距離，方位など

	てみよう 地球儀の特徴 目的に応じた世界地図	べながら，地球儀の扱いを身に付ける。 ・さまざまな世界地図から，それぞれの地図の正しく表現できる部分とできない部分，地球儀との違いについて理解する。	を調べるための技能を身に付けている。（知技） ・さまざまな世界地図（地球儀を含む）を比較しながら，それぞれの長所や短所についてまとめている。 （思判表）
	世界の略地図のえがき方	・世界はどのような姿をしているのかを，陸と海洋の分布や主な国の位置，緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察している。	・世界の地域構成の特色を，緯度と経度，大陸と海洋の分布，主な国々の名称と位置などに着目して多面的・多角的に考察し，表現している。 （思判表）
5	1 日本の位置 日本の緯度・経度 日本の位置	・世界地図から，日本がどのような位置にあるのか，緯度や経度に着目して捉える。 ・地球儀や正距方位図法から，世界の他の地域からみて日本がどのような位置にあると言えるのかを考察する。 ・日本の地域構成の特色を考察し，理解するために「日本はどのような姿をしているのでしょうか」という探究課題を立て，主体的に追究する。	・緯度や経度を利用しながら日本が世界の中でどのような位置にあるか理解している。（知技） ・日本の位置を緯度や経度，他地域との関係など多角的な視点から考察し，表現している。（思判表） ・設定した探究課題の答えを予測し，見通しをもって主体的に追究している。（態度）
	2 日本と世界との時差 標準時と時差 時差の調べ方	・標準時と時差の仕組みを理解し，地図や計算に基づいて他国と日本の時差を調べる力を身に付ける。 ・時差を通して地球上における世界各地に対する日本の位置関係を捉え，日本の地域構成の特色を理解する。	・標準時と時差の仕組みを理解し，地図や計算に基づいて，他国と日本の時差について理解している。（知技） ・時差を通して地球上における日本と世界各地との位置関係を捉え，日本の地域構成の特色を大観し理解している。（知技）
	3 日本の領域の特色 海洋国・日本 日本の領域と排他的経済水域	・日本の領域と排他的経済水域を示した地図から日本の領土や領域を捉える。 ・地図から，日本が他国に対して，比較的広い領海や排他的経済水域を有している理由を考察する。	・日本の領域・排他的経済水域の範囲や国境について理解している。（知技） ・他国と比較してなぜ日本が国土面積の割に広い領海や排他的経済水域を持つかを，地図に基づいて説明している。（思判表）
	4 北方領土・竹島と尖閣諸島 地理的に見る島々の特色	・竹島，北方領土，尖閣諸島の位置と，地域的特色，どの国との問題を抱えているかを理解する。 ・日本固有の領土である竹島，北方領土，尖閣諸島が他国との間で問題となっている理由や今後のことについて	・竹島，北方領土，尖閣諸島の位置や特色，領土をめぐる問題の存在について理解している。（知技） ・竹島，北方領土，尖閣諸島がなぜ近隣諸国と問題になっているのか，また，よりよい社会の実現へ向けてどのよ

		て考察する。	うにすべきかを考察している。 (思判表)
5 日本の都道府県 日本の都道府県と地方 都道府県庁所在地	- 都道府県や都道府県庁所在地の名称と位置を地図上で捉え、その他の資料を通して、都道府県の境界や現在に残る昔の地名・旧国名について理解する。 - 日本の諸地域学習を進める上での7地方区分とその名称を捉える。	- 都道府県や都道府県庁所在地の名称と位置を地図上の境界や現在に残る昔の地名・旧国名との関連で理解している。(知技) - 地方区分について地図から読み取り、その名称や範囲を理解している。(知技)	
日本の略地図のえがき方	日本はどのような姿をしているのかを、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに注目して多面的・多角的に考察する。	日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。(思判表)	
導入の活動 世界の人々の生活を探ろう	- 写真資料を読み取る技能を身に付け、人々の生活の工夫と自然環境についてまとめる。 - 多様な自然環境のもとで暮らす人々の生活を理解するために、「人々の暮らしは、なぜ場所によって異なっているのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	- 写真資料の比較から、各地の自然環境の特色を読み取り、気付いたことを表にまとめている。(知技) - 写真資料から、自然環境が異なる地域の人々の生活を比較、追究し、設定した探究課題の答えを予想し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。(態度)	
1 雪と氷の中で暮らす人々 雪と氷でおおわれた寒帯の様子 イヌイットの暮らしの知恵 イヌイットの暮らしの変化	- 寒帯地域の伝統的な生活を理解し、現在の暮らしがどのように変化してきたのか考察する。 - 世界各地の人々の生活と環境を学習するための基礎として、雨温図の読み取り方を身に付ける。	- 過去と現在のイヌイットの生活を比較し、その変容がどのような条件によるのかを考察し、表などを作成して分かりやすくまとめている。(思判表) - イヌイットの生活の舞台を調べるために、雨温図の読み取り方を身に付けている。(知技)	
2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 寒さが厳しい冷帯の様子 シベリアの暮らしの知恵 シベリアでの暮らしと環境の変化	- 寒帯地域との違いに着目し、冷帯地域の自然環境とそこで暮らす人々の生活の関係について考察する。 - 日本の自然環境との違いや共通点を写真や映像資料、雨温図などの資料から読み取る。	- シベリアに住む人々の生活の特色について自然環境と関連付けて考察している。(思判表) - 写真や映像資料、雨温図などから、日本の自然環境と比較し、その違いや共通点を読み取っている。(知技)	
3 温暖な土地に暮らす人々 温暖で四季がある温帯の様子	日本と同じ温帯地域でありながら、日本とは異なる自然環境や生活の特色が見られることを理解し、その背景を考察する。	温帯の気候で生活している人々の暮らしについて自分たちの生活と比較しながらその特色を考察し、その結果を適切にまとめ、表現している。	

	イタリアでの暮らしの知恵 暮らしの変化と伝統の保存	・イタリアの暮らしの変化に着目し、伝統を守る人々の取り組みについて理解する。	(思判表) ・古い町並みや伝統的な食文化を保存しようとする人々の努力について理解している。(知技)
6	4 乾燥した土地に暮らす人々 雨の少ない乾燥帯の様子 サヘルでの暮らしの知恵 サヘルでの暮らしの変化と砂漠化	・乾燥帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の工夫を理解する。 ・自然及び社会的環境に着目し、地域の人々の生活が変化している様子を捉え、表現する。	・サヘルに住む人々の生活の様子を理解し、それらの特色を自然環境と関連付けて説明できる知識を身に付けている。(知技) ・乾燥した地域で暮らす人々の生活や文化が生まれた背景と変化の過程について、自然及び社会的条件を踏まえて考察し、その考察の結果を論述している。(思判表)
	5 常夏の島で暮らす人々 一年中暑い熱帯の様子 サモアでの暮らしの知恵 伝統的な暮らしの変化と観光開発	・熱帯地域の自然環境と、そこで暮らす人々の生活の特色を見出し、その背景を考察する。 ・伝統的な暮らしの変化に着目し、砂漠化の課題や植物保護など解決への手立てがなされていることを理解する。	・農産物や食生活、伝統的な文化などに関連付けて、熱帯の気候で暮らす人々の生活の様子を考察し、論述している。(思判表) ・自然豊かなサモアでは、地域開発の必要性や課題があることや、その解決のための手立てについて理解している。(知技)
	6 標高の高い土地に暮らす人々 標高が高い高山気候の様子 ペルーの高地での暮らしの知恵 アンデス山脈の高地での暮らしの変化	・高山気候の地域の自然環境についてや、そこで暮らす人々の生活の課題について理解する。 ・高地で暮らす人々の衣食住に着目し、他の地域の生活との比較から特色を見出し、理解する。	・高地に暮らす人々の生活やその変化について、さまざまな資料を通して理解している。(知技) ・高地における人々の生活について、既得知識と関連付けて特色を理解し、その知識を身に付けている。(知技)
	7 世界に見られるさまざまな気候	・気温と降水量の違いに着目し、世界の気候は、気候帯やさらに細かい気候区に区分できることを理解する。 ・各気候区の特色について、植生、気温、降水量、緯度、標高などと関連付けて考察する。	・世界各地のさまざまな気候は、さらに細かく区分できることを気候区分図から読み取っている。(知技) ・風景や植生写真、雨温図、気候区分図などの関連から、各気候区の特色を考察し、表や地図を作成してまとめている。(思判表)
	8 人々の生活に根付く宗教 世界のさまざまな宗教 人々の暮らしと宗教	・世界にはさまざまな宗教や、宗教と関わり合いの深い生活が営まれていることを、日本の社会を踏まえて理解する。 ・世界的に広がる宗教の分布を、主題図から読み取るとともに、それらの広がりを大まかに把握する。	・世界的に広がる主な宗教の分布の広がりや生活との関わりを大まかに把握し、具体的な例を挙げて地球儀や世界地図を用いて説明できる知識を身に付けている。(知技) ・世界的に広がる主な宗教の分布の様

			子を、主題図から読み取り、特色をまとめている。（知技）
9	1 アジア州をながめて 多様な自然環境 多彩な文化 急速な経済成長と都市問題	・アジア州の自然、文化、人口、産業について、雨温図や分布図、グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・アジア州の地域的特色を理解するため、「アジア州は、なぜ急速に経済が成長してきたのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	・変化に富む自然環境や、多彩な文化が見られ、都市化が急速に進むアジア州を概観し、理解している。（知技） ・アジア州の概観を通して設定した探究課題の答えを予想し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度）
	2 アジア NIES の成長 アジア NIES の産業の変化 輸出とともに成長した韓国 ハイテク産業が発展する台湾 過密が進むアジア NIES の都市	・アジア NIES の輸出の様子や変化から工業化の進展を読み取る。 ・韓国や台湾におけるハイテク産業の発展を海外との関係から考察する。	・アジア NIES の輸出品の内訳のグラフや輸出品の変化のグラフから、アジア NIES の工業化の様子を読み取っている。（知技） ・アジア NIES の発展は、海外への輸出や海外の技術を学んだことによることを適切に表現している。（思判表）
	3 巨大な人口が支える中国 巨大な人口がもたらす発展 進む都市化と環境問題 格差の拡大と内陸部の開発	・写真やグラフから、中国経済の発展の様子を捉え、その背景を考察する。 ・中国の経済成長について、その成果と課題の両面について理解する。	・中国の工業化が進んだ理由を、経済政策と人口の観点から考察している。（思判表） ・中国の経済成長と経済格差の広がりについて理解している。（知技）
	4 都市化が進む東南アジア 農村の暮らしの変化 外国企業の進出と工業化 急速な都市化と課題	・近年、アジアの国々の製品が日本に大量に輸出されていることから、特に東南アジア諸国の産業についての関心を持つ。 ・東南アジア諸国における農村から都市への人口移動とその課題を捉える。	・東南アジアと自分たちの生活との関わりに関心を持ち、主体的に調べている。（態度） ・東南アジアの農村と都市の変化について、農村から都市への人口移動、都市問題などの視点から考察している。（思判表）
	5 急速に成長する南アジア 南アジアの人々の生活 人口増加が続く南アジア 変化する産業と都市の生活	・インドにおける経済発展と都市の変化の実態を、写真、グラフなどを通して捉える。 ・資料を使って、インドが急速に発展した理由を考察する。	・写真やグラフなどの資料から、インドの工業発展や人口増加の様子とその問題点を捉えている。（知技） ・インドの経済発展の理由について他地域との結び付きに着目して考察している。（思判表）
	6 資源が豊富な西アジア・中央アジア イスラム教徒が多い西アジア 資源が豊富な西アジア	・写真や地図、グラフなどから、西アジアや中央アジアの国々の文化や産業の特色を読み取る。 ・西アジアや中央アジアの経済発展の共通点を、アジア内の他地域と比較して	・写真やグラフなどの資料から、西アジアや中央アジアの国々が鉱産資源に頼っていることを読み取っている。（知技） ・資料から西アジアや中央アジアの経

	注目される中央アジア 安全で先進的な都市への課題	考察する。	済発展の共通点について考察し、それを適切に表現している。（思判表）
	イスラム教と人々の暮らし イスラム教徒の生活 地域によって異なる決まり 求められるイスラム教への正しい理解	・イスラム教が人々の日常生活と深く関わっていることと、それが地域的に多様であることを理解する。 ・イスラム教をはじめとする宗教の実態を示す諸資料を通して、どのような捉え方をすべきかを考察する。	・イスラム教の人々が「コーラン」にしたがって日常生活を営んでいることと、地域によってその関わりに違いが見られることを理解している。 （知技） ・イスラム教をはじめ、宗教に対してどのような捉え方をすべきかを考察している。（思判表）
10	1 ヨーロッパ州をながめて 温暖な気候と広い平野 多様な民族と共通の文化 統合するヨーロッパ	・ヨーロッパ州の自然、人口と民族、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、ヨーロッパ統合の背景を含む基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・ヨーロッパ州の地域的特色を理解するために、「ヨーロッパ州では、なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	・ヨーロッパ州には、民族を基にした小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、共通の文化が見られることなどを概観し、ヨーロッパ統合の背景を理解している。 （知技） ・ヨーロッパ州を概観して設定した探究課題の答え予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度）
	2 ヨーロッパ統合の動き 国境をこえた統合の動き ヨーロッパの統合と産業 ヨーロッパの統合と人々の生活	・ヨーロッパ州で統合されてきた内容を、写真、分布図などの資料と本文を関連付けて読み取る。 ・ヨーロッパ州の国々が国境をこえた統合を進めてきた理由や利点について、EU、アメリカ合衆国、日本を比較した統計資料などを基に考察する。	・ヨーロッパ州が統合を進めてきたことを、国境をこえた交通網や通勤・買い物、共通通貨などのさまざまな資料を関連付けることで読み取っている。（知技） ・ヨーロッパ州の国々が国境をこえて統合することの利点について、産業、人々の生活、交通の三つの視点から説明している。（思判表）
	3 持続可能な社会に向けて ヨーロッパの環境問題 環境問題への取り組み 持続可能な社会を目指した観光や農業	・ヨーロッパ州の環境に配慮した人々の活動を、諸資料の読み取りを通して理解する。 ・ヨーロッパ州で環境問題についての国境をこえた協力が早くからなされてきた背景を、その地域的特色を踏まえて考察する。	・ヨーロッパ州の環境に配慮した消費生活やエネルギー利用、観光に対する考え方などを資料から読み取り、理解している。（知技） ・ヨーロッパ州で起こっている国境をこえた環境問題について、EU 共通の取り組みの視点から考察している。（思判表）
	4 EU がかかえる課題	・EU 加盟国間の格差や対立について、写真やグラフ、主題図から読み取る。	・EU 各国の一人あたりの国民総所得や、ヨーロッパに居住する外国人の

	格差をかかえる EU ヨーロッパの産業の変化と課題	・ヨーロッパにおける産業の仕組みの変化と、それにともなう移民・難民への対応など、EU がかかえる課題について考察する。	出身地の主題図から、EU がかかえる課題を読み取っている。（知技） ・ヨーロッパが統合することの問題点や課題を、EU 加盟国間の対立や EU と他地域との関係に着目して説明している。（思判表）
	アジアとヨーロッパとにまたがるロシア 多様な自然環境と民族 豊富な資源を生かした産業 アジアとヨーロッパとをつなぐ交通と物流	・近年、ヨーロッパの国々との結び付きを強めるロシアの産業について、主題図などの資料と関連付けて読み取る。 ・ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの交通・物流面での重要性に気付く。	・ロシアの鉱産資源の分布図から、それぞれの地域で発達している工業を、気候や地形などと関連付けて読み取っている。（知技） ・ヨーロッパの国々とロシア連邦の結び付きについて、産業や交通の視点から考察している。（思判表）
11	1 アフリカ州をながめて 広大な砂漠が広がるアフリカ サハラ砂漠の北と南 アフリカの歩み	・アフリカ州の自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・アフリカ州の地域的特色を理解するために、「アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	・広大な砂漠を持つ自然、古い歴史と伝統的な文化、農業や鉱業を中心とした産業などの特色を概観し、理解している。（知技） ・アフリカ州の概観を通して設定した探究課題の答えを予測し、その答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度）
	2 アフリカの産業と新たな開発 世界に輸出されるカカオ プランテーション農業と農牧業 豊富な鉱産資源 アフリカの産業の仕組み	・アフリカ州のプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取る。 ・アフリカ州の産業から、国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察する。	・アフリカ州の農業と工業の特色や問題点を、さまざまな資料の関連付けから読み取っている。（知技） ・アフリカ州の産業から、国際支援が必要な背景を多面的・多角的に考察している。（思判表）
	3 発展に向けた課題 民族分布と国境 進む都市化と人口増加 発展への課題	・ナイロビ市内の二つの写真およびアフリカ各地域と日本、世界における乳児死亡率を比較し、その共通性と相違点について考察する。 ・アフリカ州の課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。	・写真や表から、アフリカ州では都市化が進む一方で、農村地域との格差や生活水準が異なることを説明している。（思判表） ・現在のアフリカ州が持つ課題について、三つの視点（都市化、人口増加、環境問題）を踏まえて理解している。（知技）
	情報化がアフリカ社会を変える	・アフリカ州の国々の情報化が進んだことで、人々の生活が大きく変わりつつあることを理解する。	・情報化の進展によって、アフリカ社会に金融、医療、生活面で「モバイル革命」が起こるなど、大きな変化が起

	急速に普及するスマートフォン アフリカで成長する ICT 産業 変化する人々の生活	・アフリカで急速に情報化が進んだ理由を、アフリカ内や他の州との結び付きに着目して考察する。	こっていることを理解している。 (知技) ・アフリカで急速にスマートフォンが普及した理由を、大規模なインフラ整備を必要としない回線網、先進国の ICT 産業のアフリカへの進出と関連付けて説明している。(思判表)
12	1 北アメリカ州をながめて 多様な自然環境 多様な人々と文化 移動する人々	・北アメリカ州の自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・北アメリカ州の地域的特色を理解するために、特に、アメリカ合衆国に注目しながら「北アメリカ州では、なぜ、アメリカ合衆国への移民が多く見られるのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	・大陸と島々からなる多様な自然、移民によって持ちこみ育まれた文化、世界に影響を与える巨大な経済力などの特色を概観し、理解している。 (知技) ・北アメリカ州を概観して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。(態度)
	2 巨大な農業生産力と移民 世界の食料庫 農牧業に進出する企業経営 高い収入を求めて移動する人々	・アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。 ・アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方式、農場経営の仕方などの視点から考察する。	・アメリカ合衆国の大規模で合理的な農業の特色を、主題図や写真などのさまざまな資料を関連付けて読み取っている。(知技) ・アメリカ合衆国が多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方式、農場経営の仕方などの特色から説明している。(思判表)
	3 巨大な工業生産力 アメリカの工業の変化 情報化と新しい工業の発展 低賃金の地域に移動する工業生産	・アメリカ合衆国で発展してきた重工業や先端技術産業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。 ・アメリカ合衆国の工業は、広大な国土と豊かな資源に加えて、ヨーロッパ州やアジア州からの移民の存在によって発展してきたことを理解する。	・アメリカ合衆国の五大湖沿岸、サンベルトの工業地域について、主な工業の種類とそれが発展した理由を比べて、図表などにまとめている。 (知技) ・アメリカ合衆国では、移民が産業の発展に重要な役割を果たしてきたことを理解している。(知技)
	4 新しい産業と生活文化 産業の変化と移民 新しい生活文化と移民 世界をひきつけるアメリカの文化	・日本にも広がるショッピングセンターやファストフード店などから、アメリカ文化が世界に大きな影響を与えていることを理解する。 ・アメリカ合衆国の生活文化について、人口構成や移民に着目して考察する。	・アメリカ合衆国の生活文化が、世界の国々に大きな影響を与えていることを理解している。(知技) ・アメリカ文化が世界中に広がっている理由を、人の動きに着目して説明している。(思判表)
	ハリケーンから人々を守る	・過去に大きな被害をもたらしてきたハ	・ハリケーンについて、その進路や被

	相次ぐハリケーンの被害 最新の ICT を生かした予測	リケーンから人々を守るために、その規模、速度、進路などの予測に最新の ICT が活用されていることを理解する。 ・ハリケーンセンターがマイアミに置かれている理由を、地理的な見方・考え方を働かせて考察する。	害の大きさとその対策について理解している。（知技） ・ハリケーンセンターがマイアミに置かれている理由を考察し、表現している。（思判表）
2	1 南アメリカ州をながめて 南北に長い大陸 混じり合う人々と文化 経済の発展	・南アメリカ州の自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・南アメリカ州の地域的特色を理解するために、「南アメリカ州では、なぜ森林が減少しているのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	・南北に細長い大陸の自然環境、混血の進行と新しい文化の形成、急速な経済の発展などの特色を概観し、理解している。（知技） ・南アメリカ州の概観を通して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。（態度）
	2 自然環境と共生する生活 アマゾン川とともに生活する人々 森林を守る農業	・南アメリカ州の自然環境の様子を、写真や模式図などの資料から読み取る。 ・南アメリカ州では、環境をどのように利用しながら生活してきたのか、大河流域と森林のそれぞれの地域から考察する。	・南アメリカ州の自然環境の特色を、写真や模式図などの資料から読み取っている。（知技） ・南アメリカの特徴的な地域である、アマゾン川流域、熱帯林の各地域で営まれてきた伝統的な生活を、自然環境との共生という観点から説明している。（思判表）
	3 開発の進行と影響 世界を支える農牧業 世界を支える鉱産資源 持続可能な開発に向けて	・アマゾン地域の写真や分布図などから、大規模な開発の影響と課題について読み取る。 ・アマゾン川流域の環境問題について、農業や資源・エネルギー問題の視点から、その原因と解決策を考察する。	・アマゾン川流域で森林が減少している理由を、写真や主題図、グラフなどの資料から、大規模な開発と関連付けて読み取っている。（知技） ・アマゾン川流域の大規模な開発に起因する環境問題の解決に向けて、持続可能な開発の観点から説明している。（思判表）
	南アメリカで活躍する日系人 南アメリカにわたった日本人 日系移民を通して広がる日本の伝統・文化	・南アメリカには多くの日系人が住み、日系人社会を築いていることを理解する。 ・ブラジル社会において日系人が高く評価されるに至った歴史的な経緯について理解する。	・南アメリカには日系人が多いことやその活躍について理解している。（知技） ・日系人がブラジル社会でさまざまな貢献をしてきたことについて、具体例を踏まえて理解している。（知技）
3	1 オセアニア州をながめて 「乾燥大陸」と多くの島々	・オセアニア州の自然、文化の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識	・乾燥大陸と島々から成る自然、先住民の文化、貿易相手国の変化、などの特色を概観し、理解している。

	オセアニアの文化 強まるアジアとの結び付き	を身に付ける。 ・オセアニア州の地域的特色を理解するために、「オセアニア州では、なぜアジアとの結び付きが強くなってきたのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。	(知技) ・オセアニア州の概観を通して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。(態度)
	2 貿易を通じた他地域とのつながり 農産物の輸出大国 豊富な鉱物資源の輸出 アジアとの経済的な結び付き 観光客をひきつけるオセアニア	・オーストラリアやニュージーランドの農牧業や鉱業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取る。 ・オーストラリアの輸出品や貿易相手国の変化から、アジア州とのつながりが深まってきた理由を考察する。	・オーストラリアやニュージーランドの農牧業や鉱業の特色を、さまざまな資料を関連付けながら読み取っている。(知技) ・オーストラリアの輸出品や貿易相手国の変化について、アジア州との結び付きに着目して説明している。(思判表)
	3 人々による他地域とのつながり 植民地化による影響 白豪主義からの転換 多文化社会を目指して	・人々の交流の面から、オセアニア州とアジア州とのつながりが深まってきたことを理解する。 ・オーストラリアにおける、移民や先住民に対する政策の転換、移民の出身州の移り変わりに関して、多文化社会の形成という観点から考察する。	・オセアニア・アジア間の人と人との結び付きや関わりが深まってきていることを理解している。(知技) ・オーストラリアを事例に、人種や民族、文化の異なる人々が共存して社会を築いていくためには何が必要かを、議論したり、意見交換したりしている。(思判表)
	水没の危機にあるツバル ツバルってどんな国？ 水没の危機に直面するツバル ツバルの環境問題の解決に向けて	・ツバルが直面する環境問題の複雑さとその原因、対策について、理解する。 ・日常生活の中で自分たちにできる環境問題の取り組みについて、地球規模と身近な地域の両方の視点から、考察する。	・ツバルの環境問題の実態やの解決に向けて、国際的な協力の必要性などを理解している。(知技) ・環境問題への取り組みについて、地球規模と身近な地域の両方の視点から、主体的に考えようとしている。(思判表)